



蔵王は今も活動を続ける活火山。円型の火口湖である「御釜」は、湖面にエメラルドグリーンの水を湛えている。



最上川は江戸時代、輸送の大動脈となり、物資だけでなく文化も運ぶことになった。



酒田市から39km沖にある飛鳥。烏帽子群島を望む海岸遊歩道は、夕陽スポットとしても知られている。



山形県と秋田県に跨る標高2,236mの活火山。山頂に雪が積もった姿が富士山にそっくりなため、「出羽富士」として親しまれている。

Geography 地勢

山形県は、東北地方の南西部に位置し、県の北西側が日本海に面している。北は秋田県、東から南は宮城、福島、南西は新潟県にそれぞれ隣接し、東西約100km、南北約160km、総面積は約9,323km²で全国第9位の広さである。

東の県境には標高1,000mから2,000mに及ぶ奥羽山脈が南北に走り、山形県が日本海側の気候に属する要因となっている。また、中央部には県を内陸部（最上、置賜、村山地方）と沿岸部（庄内地方）に分ける形で、出羽山地・月山・朝日山地が南北に延びる。北の秋田県境には鳥海山（2,236m）、南の新潟県境と福島県境には飯豊山地・吾妻連峰が連なる。山形県の母なる川・最上川は、福島県境の吾妻連峰に源

方の平野部は雨、雪ともに少ないが、山間部は多雪地帯となっている。新庄市を中心とする最上地方は冬の積雪が多く、米沢市を中心とする置賜地方は比較的穏やかな気候だが、山間部は多雪地帯となっている。県人口は、戦前は一貫して増加。戦後の第一次ベビーブームによって1950（昭和25）年に最大となった。その後は産業構造の変化で郡部から都市部へ労働力が移動し、県内

を発し、置賜地方、村山地方を北流し、西に流れを変え、最上地方、出羽山地を横切り、庄内平野を流れ、酒田市で日本海に注ぐ。

山形県の気候は、日本海に面する沿岸部と奥羽山脈西側の内陸部に大別される。沿岸部の庄内地方は海洋性気候の特徴を持ち、多雨多湿で冬季には北西の季節風が強い。内陸部は一日の最高気温と最低気温の差が大きい。山形市を中心とする村山山地



寒河江川から月山を望む。月山は、山形県の中央部にある標高1,984mの火山。山域は磐梯朝日国立公園の特別区域に指定され、日本百名山にも選定されている。

各市の都市化と県外諸都市への移住によって人口が減少。第二次ベビーブームに入っても人口減が続き、1975（昭和50）年には県人口が戦後最低となった。1985（昭和60）年に126万1,662人まで増加して第二のピークを迎えたが、その後人口は減少に転じている。山形市がある村山地方（山形盆地）は、ほぼ1つの都市圏として機能し、県内における人口比率を上げている。